

規 約

- 1 『筑波大学先史学・考古学研究』は、筑波大学人文社会科学研究所先史学・考古学コースの研究誌として、先史学・考古学関係の論文、資料等を掲載し、研究の推進を図ることを目的としています。
- 2 寄稿者は、筑波大学関係者及び研究協力者とします。
- 3 投稿、依頼いずれの場合でも、寄稿された原稿の採否は編集委員会で審査し、決定いたします。また、書き直しをお願いすることがあります。
- 4 外国語で発表を希望される場合は、事前に編集委員会に御相談ください。
- 5 当面は、年1回の刊行とし、原稿の締切りは毎年10月31日とします。
- 6 執筆要項は、『筑波大学先史学・考古学研究』編集委員会（☎ 305-8571 つくば市天王台 1-1-1 筑波大学人文社会科学研究所先史学・考古学コース内 ☎ 029-853-4048、もしくは tap@histanth.tsukuba.ac.jp）まで御請求願います。

『筑波大学先史学・考古学研究』執筆要項

- 1 『筑波大学先史学・考古学研究』の原稿の内容、分量（写真・図・表を含む）は以下の通りとします。なお、原稿枚数が超過すると見込まれる場合は、事前に編集委員会に御相談ください。

論 文	新しい資料または手法、視点に立って学術水準の新たな地平を拓く研究。20,000字以下とする。
研究ノート	まとまった研究（論文）の完成に向けて予備的に報告し、あるいは研究における新たな視点、手法などを公表することによって、そのテーマに関心を持つ研究者からの助言や協力を広く求めようとするもの。10,000字以下とする。
調査報告	発掘調査などの経過報告と、全体的な資料の紹介および評価。20,000字以下とする。
資料紹介	さまざまな種類の研究資料について紹介し、学術的な意義について注意を喚起するもの。10,000字以内とする。
- 2 原稿は原則としてワードプロセッサで作成してください。手書き原稿の場合は、事前に編集委員会に御相談ください。
- 3 原稿は42字詰35行でA4版用紙に印字し、使用OS名、使用ソフト名を明記したCD-R（CD-RW）とともに提出してください。また、原稿は、電子メールに添付して、編集委員会のメールアドレス（tap@histanth.tsukuba.ac.jp）宛てに提出することもできます。
- 4 原稿表紙には、題名及びその英訳、執筆者氏名とそのローマ字綴り、所属機関名を記してください。
- 5 論文及び研究ノートについては、600字以内の日本語要旨と、英文要旨を必ず添えてください。
- 6 漢字は新字体としますが、常用漢字表には拘束されません。仮名遣は原則として新仮名遣とします。
- 7 外国の固有名詞・人名は片仮名で書き、初出の個所は括弧内に欧字で記してください。

例	カリム・シャヒル（Karim Shahir）
	トインビー（A.J.Toynbee）

ただし、極めて一般的な場合には必要ありません。
- 8 章、節、項は以下の原則により作成してください。ただし、必要上原則により難しい場合は、理由を明示してください。

例	Ⅲ. 分析と考察
	1. 土器型式からみた周辺地域とのかかわり
	（1）浜中2遺跡出土土器の型式
- 9 註は、本文右肩に¹⁾、²⁾…の番号を付し、文末に一括してください。
- 10 引用文献は、本文または註の中に（ ）に入れて、著者姓、刊行年（西暦で表記）：該当頁数を記してください。

同じ著者で同一年に複数の文献がある場合には、刊行年の後に刊行順に a, b, c, ... を付してください。
例 外国語文献の場合…の例がみられる (Wheeler1954 : pp. 21-22)。

日本語文献の場合…と指摘していることが注目される (藤本 1988b : 4-6 頁)。

11 文献目録は最末尾に一括し、以下の原則により作成してください。ただし、必要上原則により難しい場合は、理由を明記してください。

- (1) 配列は著者姓のアルファベット順または五十音順としますが、洋書と和漢書の数が共に多い場合は、別々にまとめてください。
- (2) 記載の順は、(6) の例を参照ください。国内文献は出版地を省略しても差し支えありません。
- (3) 雑誌については、原則的に出版地、出版社は省略してください。また、大学・博物館紀要は、大学名・博物館名を入れるようにしてください。
- (4) 復刻版、2版以後の版本を用いた場合は、初版刊行年を〔 〕で表記し、版次を示してください。
- (5) 欧文の場合、書・誌名は斜体にするか下線を付してください。
和漢書の場合、論文表題には「 」, 書・誌名には『 』を付してください。
なお、史料集などの史料を用いた場合は、論文に準じてください。
- (6) 翻訳書を用いた場合は、原書について《 》内に (1) により記してください。

例 浅野 清 1953『法隆寺建築綜観』京都大学文学部考古学叢書 第1冊 京都 便利堂
小林行雄 1957 8版 [1951]『日本考古学概説』東京 創元社
鈴木公雄訳 1974『先史学の基礎理論』雄山閣出版《Rouse, I., *Introduction to Prehistory*. New York: McGraw-Hill Book Company.》
竹内理三編 1962 訂正4版 [1943 訂正1962]「法隆寺伽藍縁起并流記資材帳」『寧楽遺文』
下巻 東京堂出版。
中村国香 1791 (宝暦 11) 「房総志料」改定房総叢書刊行会編『改定房総叢書』第3輯
1959 [1941] 同刊行会。
藤本弥城 1988 「茨城県広畑貝塚の晩期縄文土器」『考古学雑誌』第73巻第4号 1-35頁
森 郁夫 1987 「第三章 調査経過と概要」奈良国立文化財研究所編『薬師寺発掘調査報告』
本文 奈良国立文化財研究所学報 第45冊 奈良国立文化財研究所 16-22頁。
Caley, E. R. 1971 Analyses of some metal artifacts from ancient Afganistan. In R. H. Brill (ed.),
Science and Archaeology. Cambridge, MIT Press, pp. 106-113.
Keeley, L. H. 1974 Technique and methodology in microwear studies: a critical review. *World
Archaeology*. 5-3, pp. 323-336.
Wheeler, R. E. M. 1954 *Archaeology from the Earth*. London. Oxford University Press.

- 12 写真はモノクロームとし、図は黒インクで製図してください。また、デジタルファイルでの入稿も可能です。写真、図、表は縮尺を指定してください。仕上がり寸法は表題も含めて、縦20.6cm、横13.4cm以内に収めてください。なお、写真の掲載に関してアート紙を希望する場合は、事前に編集委員会にご相談ください。
- 13 写真、図、表には、表題、説明とともに典拠を明示し、別紙の原稿としてください。なお、本文での挿入場所を必ず明示してください。
- 14 図、表内の写植文字等は本文ファイルと同じメディアに別原稿として入れておいてください。